

『BRICsシリーズ』

ロシア携帯電話市場分析 2004

- 世界から注目されるロシア携帯電話市場の現状分析と
今後の展望 / ロシア市場参入へ向けた示唆 -

移動体通信・IT専門の調査会社である株式会社MCA (<http://www.mca.co.jp/>)では、世界の携帯電話端末市場の成長を牽引する「BRICs シリーズ」第1弾として、12月22日に調査レポート「ロシア携帯電話市場分析 2004年版」(価格:78,750 円/税込み)を発刊しました。

BRICs各国は巨大な人口基盤とする内需市場と豊かな天然資源を確保しており世界で最も成長潜在力が高い市場と言われています。その反面、IT インフラ構築が遅れIT関連市場規模は先進国に比べて立ち後れています。しかし、BRICs各国のなかでは国家競争力評価において日本に匹敵する国も現れ、高い経済成長率とバイイングパワーなどを考慮すると、BRICs国家を単純に開発途上国として認識するのは早計かも知れません。

今回取り上げる「BRICsシリーズ」のロシアでは「E-ロシア 2002 - 2010」というIT振興政策を導入し、立ち遅れているIT産業全般の変革を中央政府主導で強力に推し進めています。本レポートでは、ロシア携帯電話市場全般を旧ソ連時代からロシア通信業界を調査研究し、複数の外国メーカーのロシア市場参入を成功へ導いた現地専門コンサルタントが現地にて調査分析した「ロシア携帯電話市場参入へ向けた指針レポート」でもあります。的確なロシア市場全般の動向分析から、日本の端末メーカーなどが最も期待する端末市場のリアル動向、現地事情、市場参入への障害、そしてこれらの問題解決策に至るまで分析を試みているのが大きな特徴です。具体的には、ロシア携帯電話市場再編の主役である「ピック3」提携他電話事業者、巨大なロシア携帯電話端末市場において熾烈なシェア争いを振り広げているサムスン、ソニーエリクソンなど端末メーカー、そして市場参入において欠かせない大手端末流通業者の最新動向を分析した上で、日本企業のロシア市場参入に関する諸アドバイスを加えています。

調査対象先

<携帯電話キャリア>

MTS、 VimpelCom、 Megafon、 Uralsvyaz- inform、 SMARTS、

その他主要群小キャリア

<端末メーカー>

サムスン、 Sony-Ericsson、 Motorola、 Nokia、 Siemens、 LG

<端末流通業者>

Yevroset、 Tekhmarket、 Dixis、 Maxus、 MobilniyeSovety、

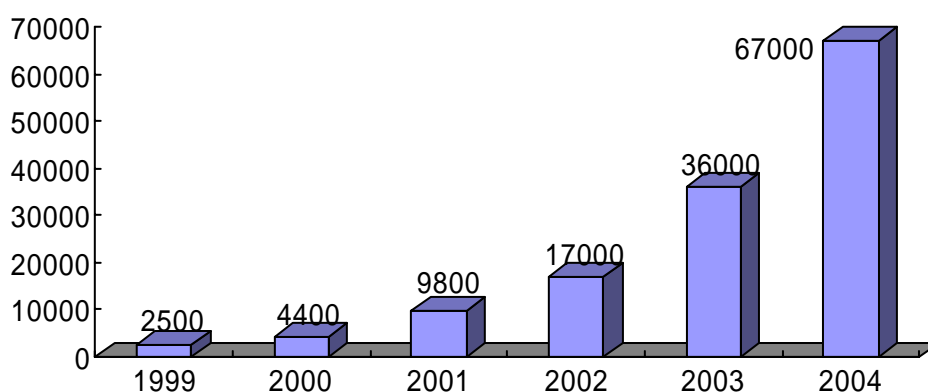
Mobitel、 BetaLink

調査結果抄録

- ロシアの固定電話普及率は都市部地域 20%、農村地域では 8%に過ぎず、劣悪な固定電話インフラの大体案として携帯電話普及を進めている。
- ロシア携帯電話市場は連邦中央政府と地方政府によるライセンス乱発によって 100 に及ぶ群小事業者があるが、MTS などの「ビック3」事業者に再編されつつある。
- ロシア携帯電話加入者数は過去 5 年間毎年倍増し、2004 年末には 6,700 万、そして 2006 年中にも 1 億に達する勢い。
- ロシア携帯電話市場では国内端末メーカーが 1 社もなく、すべての端末を外国からの輸入に依存しており、日本メーカーの市場参入チャンスは高い。
- ロシア端末市場ニーズはこれまでの新規加入者中心の低価額端末から High-end 製品への買い替え需要が主流になりつつあり、高機能とデザイン性において優位にたつ日本メーカーの競争力は十分ある。
- ロシアの携帯電話技術方式別シェアでは GSM 方式が 95%を占めており、2005 年には 3G サービスの事業者選定が計画されている。
- ロシアの携帯電話の流通構造は一般小売店舗型から 2002 年から大型チェーン化しており、端末販売のシェアアップには有力端末販売チェーン業者との提携が重要

1995 年から本格的な普及が始まったロシア携帯電話市場の加入者増加には、固定電話の普及困難が背景にある。ロシアでは旧ソ連時代から固定電話を引くまでに 2~3 年かかることが常識となっており、早急の回線確保には 500 ドルほどの賄賂が必要だ。そのため、都市地域の場合でも固定電話の普及率は 20%で、農村地域では 8%に過ぎず、OECD 国家平均の 80%には遠く及ばない。このような劣悪な固定電話インフラによって携帯電話への需要は高まる一方である。

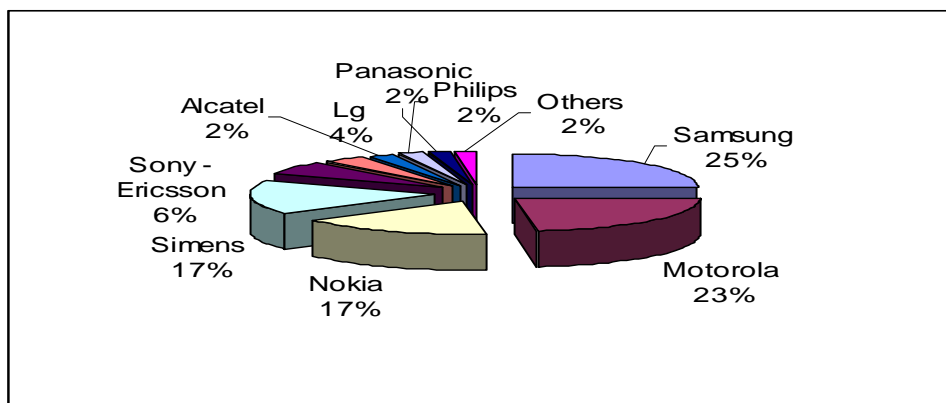
図3 - 1 ロシア携帯電話加入者数増加推移 (単位:千)



出展: MCA

端末メーカーにとってロシア携帯電話市場ほど魅力的な市場はない。なぜなら、1億5千万市場に国内端末メーカーが1社もなく、すべての端末需要を輸入に依存しているからだ。通関や端末代金回収などで諸問題があることは否めない。しかし、自国の端末メーカー保護を重視する中国と比較すると自由競争市場論理が浸透しているロシアは世界でも数少ない魅力的な市場であるに違いない。

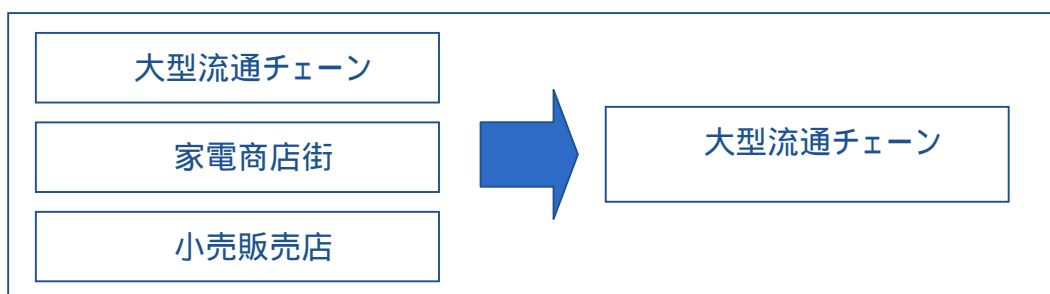
図6 - 3 2004年第3四半期のロシア携帯電話端末市場シェア



出展:MCA 作成

……ロシア市場のもうひとつの魅力は政治、経済、文化において1億5千万のロシアのほか、ロシアの強い影響下にある1億2千万人のCIS諸国と東欧圏があること……。実際、ロシア国内で売れた同一端末のモデルはロシア隣近国家でも……。ほとんどロシアと旧ソ連のCIS諸国は毎日同じ時間にまったく一緒のTV広告を見るからだ。

図7 - 1 携帯電話端末の流通構造変化



モスクワの端末販売店の形態は、携帯端末流通チャネルは大きく大型流通事業者チェーン、電気製品団地である「ガロブシカ」、そして街角の普通の端末売場などがある。2002年からは携帯電話端末だけを取り扱う専門店の大型チェーンが増え始めてから、小規模の端末売場は徐々に減っている傾向にある。2004年現在モスクワには約3000におよぶ端末販売売場があるが、今後はロシア全土に大規模流通網を構築している3 - 5社の専門チェーン業者に改編されと予想される。

調査資料の詳細

- ・発行日:2004年12月
- ・判型:PDF形式によるダウンロード販売
- ・ページ数:54頁
- ・発行・販売:株式会社エムシーエイ
〒106-6138 埼玉県さいたま市南区南浦和2-3-2 日栄ビル
TEL:048-813-7395 FAX:048-813-7399
URL . <http://www.mca.co.jp> E-mail . info@mca.co.jp
- ・頒価:78,750円(税込み)
- ・調査期間:2004年10月~12月

資料の問い合わせ先

株式会社MCA(<http://www.mca.co.jp/>)
E-mail: support@mca.co.jp
Tel:048-813-7395 Fax:048-813-7399